

三村 洋美

福岡県立大学看護学部老年看護学 講師

### 要介護腹膜透析療養者の支援システムの構築に関する研究

本研究の目的は、療養者のもっている訪問看護師とホームヘルパーの役割の認識と、訪問看護師とホームヘルパーのもっているサービスの状況の認識を明確にし、要介護の腹膜透析療養者が在宅で療養生活を継続するための支援システムのグランドモデルを作成することである。

3ヶ所の腹膜透析外来に通院し、介護保険のサービスとして訪問看護か訪問介護を受けている要介護の腹膜透析療養者、実際に訪問を行っている訪問看護師、訪問看護師と協力しながら訪問介護を行っているホームヘルパーを対象として、それぞれにインタビューを行った。分析方法は腹膜透析療養者、ホームヘルパー、訪問看護師のインタビューの内容をそれぞれに、内容分析の手法を用いて本研究の研究者2名で分類し類型化を行った。その結果を元に、訪問看護ステーションの管理者、ヘルパーステーションの管理者などを加えて検討を繰り返した。要介護の腹膜透析療養者の支援のための課題分析を行い、さらに検討を行ってグランドモデルの連携図の作成を行った。

結果は、療養者のもつ訪問看護師の役割の認識は『療養生活の判断基準の提示をする』、『緊急時すぐに対応する』、『必要な援助を調整する』であり、療養者のもつホームヘルパーの役割の認識は、『生活を安定させる』、『腹膜透析を見守る』であった。訪問看護師の持つサービスの状況の認識は『本当に正しい方法を伝える』、『誰がどの部分を手助けするのかを見分ける』、『報告をして協力を得る』であった。ホームヘルパーの持つサービス状況の認識は、『決められた生活支援はしているが、不足を感じる』、『家族との分担がはっきりしない』であった。

要介護の腹膜透析療養者が在宅で療養生活を継続するための支援システムのグランドモデルを作成し、その実行のための事前調整のモデルと緊急時の連携例を提示した。今後の課題は、作成したグランドモデルを使用し実施評価を行うことである。